

# ナイスケアだより

第150号

令和6年11月発行

10月21日に日本出版クラブにて淑徳大学 結城先生執筆『介護格差』出版記念パーティーを岩波書店、こころ介護事業所、ナイスケア共催で開催しました。介護に携わる関係者が90名集まり大変盛大に会は行われました。結城先生は社会保障制度、介護保険制度に精通し、多くのメディアなどで活躍されています。人材不足、高齢化、物価高騰の影響、介護報酬が低いことなど介護現場の厳しい現状をはっきりと発信していただき私たち介護職の代弁者となっています。

介護保険開始当初は新宿区役所の地域包括支援センターで勤務されており一緒に仕事をした関係で長年仲良くさせていただいております。

今回の『介護格差』の本は介護現場の状況を担い手、受け手のそれぞれの視点から介護の実態や課題を包み隠さず書かれています。内容は厳しく感じるとこともありますが、ご利用者、ご家族、介護職員・関係者に対し今後の対策や応援のエールが書かれていると感じました。未来に向けて厳しい現状は続きますが、私ども介護事業者は前を向き幸せな老後に繋がるように努力していきます。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

## ～勤労感謝の日～

落ち葉の季節となってまいりました。皆様お元気でお過ごしでしょうか？

11月の祝日で勤労感謝の日がありますが、子供のころは家族のために働く父親に感謝を示す日だと認識されていると思っている人も多いのではないのでしょうか。国民の祝日に関する条文には『勤労をたつとび【敬い】、生産を祝い、国民互いに感謝し合う日』と記載されています。もともとは11月に新嘗祭(にいなめさい)という祝祭が由来で五穀豊穡を祝う日本古来の風習からきており、収穫した農作物を皇祖や神々にお供えするという宮中行事で23日になると天皇陛下が自ら新穀を神々に供え、その年にできた農作物を召し上がるという習わしが今でも続いています。勤労感謝に変わった理由として諸説ありますが、宮中行事と国民行事を切り離さないといけなくなり、アメリカの感謝祭のある11月の祝日と9月にある労働の日の概念を加えて勤労感謝の日が制定されたのではないかと諸説が有力とされています。

今年もいろいろな苦難な日がありましたが、今年も残りわずかになります。自分を労い、感謝を忘れずにもう少し頑張りましょう。

荒井 亮介

ホームページ <https://nicescare.tokyo/>

nicescare.tokyo

検索